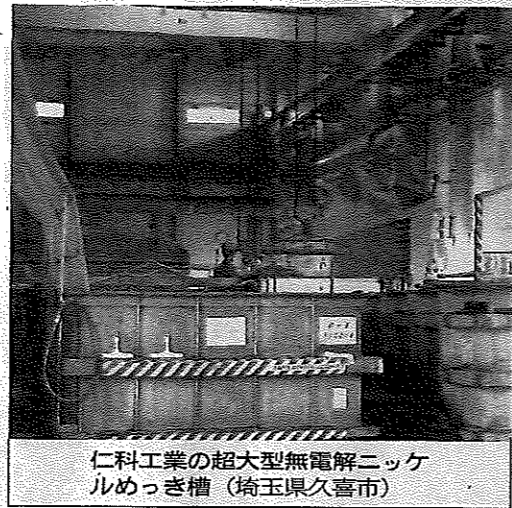


探訪 ググッと首都圏

電気製品や部品などを腐食や酸化から防ぎ、人々の暮らしを支える技術だ。めっき処理を専門とする仁科工業(さいたま市)は国内最大級の無電解ニッケルめっき槽を保有し、航空・宇宙や半導体など幅広い産業のニーズに対応。自動化と熟練社員の技術を重視する工程を使い分け、企業競争力の向上を目指す。

埼玉 航空・宇宙・半導体産業磨く

同社は1956年、亜鉛やクロームのめっきを



仁科工業の超大型無電解ニッケルめっき槽(埼玉県久喜市)

仁科工業のユニテック工場

(埼玉県久喜市)

主力として事業をスタート。現在は防食性があり、硬度の高い「ニッケルめっき」を主に手掛ける。設置以降、徐々に容量の大型化を進め、2006年に容量3万リットル以上の超大型ラインを設けた。大型化のメリットは大きな部品を取り扱えるだけでなく、複数の部品を組み立てたままめっき加工できる点にある。注企業にとっては二次加工などが不要となり、製造を効率化できる。

国内最大級のめっき槽強み

などで扱う小型部品の処理は自動化。女性のみで動かしているラインもあるという。処理の際にザラ(突起)やピット(へこみ)などが起きないか検査するため「走査型電子顕微鏡(SEM)」を導入するなど、品質検査体制や研究体制も強化し、顧客の幅広いニーズに対応。オンラインの技術を求める顧客は全国に広がり、売上高は直近10年間で約1.5倍に成長した。24年の九都県市首脳会議では、同社の技術が「九都県市のきらりと光る産業技術表彰」に選ばれた。技術開発室の竹本暁生氏は「従来よりも厚いめっき槽の大容量化などに備え、研究にも力を入れていく」と話す。現在の超大型槽は20リットルの重さに耐えられるが、久喜市内でさらに大きなめっき槽の設置も計画。最大30リットルの製品を処理できるようにして、さらなる事業拡大を目指す。(荒牧寛人)

埼玉